

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

|                |                |          |      |     |
|----------------|----------------|----------|------|-----|
| ※受理番号          | 学 校            | 教 科      | 種 目  | 学 年 |
| 107-118        | 高等学校           | 商業       | 原価計算 |     |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教 科 書 名 |      |     |
|                |                |          |      |     |

## 1. 編修の基本方針

- ① 幅広い知識と教養を身に付ける観点から、学習事項に関連する内容の会計処理方法を紹介する囲み記事や学習した内容の確実な理解を図ることを目的とした囲み記事等を掲載している。
- ② 自主及び自立の精神を養う観点から、章末に練習問題を掲載し、自学自習に役立つよう配慮している。また、巻末には自学自習の手助けとなるよう重要事項のまとめも設けている。
- ③ 学習要素や例題の解説などではイラストや図解を用い、学習者が具体的にイメージしやすいよう配慮している。
- ④ 正義と責任を重んずるという観点から、原価計算基準とその役割を記述している。また、巻末には原価計算基準の抜粋も掲載している。
- ⑤ 職業及び生活との関連という観点から、製造現場をイメージできるよう写真やイラスト等を数多く用いて記述している。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容      | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所   |
|---------------|---|--|
| 「まえがき」以下、本書全体 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統と文化を尊重し、国際社会の発展に寄与するという観点から、簿記が歴史的技術であることにふれ、本書で学ぶ原価計算が製造業を中心とした多くの企業の経営活動を支えていることを紹介している（第5号）。</li> </ul>   | <p>p. 2～3<br/>p. 7～253</p>                                   |
| 第1編           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広い知識と教養を身に付ける観点から、原価計算に関する基礎的な内容を記述した（第1号）。</li> <li>・ 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている（第4号）。</li> <li>・ 男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した（第3号）。</li> <li>・ 職業及び生活との関連を重視するという観点から、大型ヨットと遊覧ボートを例に原価計算の概要を説明している（第2号）。</li> </ul> | <p>p. 7～46<br/><br/>p. 7<br/><br/>p. 7<br/><br/>p. 16～17</p> |

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 第2編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、費目別計算に関する基礎的な内容を記述した(第1号)。</li> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている(第4号)。</li> <li>・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した(第3号)。</li> </ul>   | <p>p. 47～88</p> <p>p. 47</p> <p>p. 47</p>  |
| 第3編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、原価の部門別計算と製品別計算に関する基礎的な内容を記述した(第1号)。</li> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている(第4号)。</li> <li>・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した(第3号)。</li> <li>・職業及び生活との関連を重視するという観点から、工場の製造現場がイメージできるようなイラスト等を掲載している(第2号)。</li> <li>・職業及び生活との関連を重視するという観点から、製品として扱う題材や例示を身近なものとしている(第2号)。</li> </ul> | <p>p. 89～184</p> <p>p. 89</p> <p>p. 89</p> <p>p. 91 , p. 111 , p. 119 , p. 164 , p. 174</p> <p>p. 109～110<br/>p. 138, p. 152, p. 155, p. 181</p> |
| 第4編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、製品の完成と販売に関する記帳について基礎的な内容を記述した(第1号)。</li> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている(第4号)。</li> <li>・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した(第3号)。</li> <li>・職業及び生活との関連を重視するという観点から、完成した製品の例を身近なものとしている(第2号)。</li> </ul>   | <p>p. 185～202</p> <p>p. 185</p> <p>p. 185</p> <p>p. 186～187</p>  |
| 第5編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、標準原価計算に関する基礎的な内容を記述した(第1号)。</li> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている(第4号)。</li> <li>・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した(第3号)。</li> <li>・真理を求める態度を養うという観点から、発生した原価差異がどのような理由から発生し、どのように改善できるかについても記述している(第1号)。</li> </ul>  | <p>p. 203～236</p> <p>p. 203</p> <p>p. 203</p> <p>p. 215, 217, 220</p>  |

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 第6編      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、直接原価計算に関する基礎的な内容を記述した（第1号）。</li> <li>・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から登山をイメージした内容を扱っている（第4号）。</li> <li>・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、協力して登山を行う内容を掲載した（第3号）。</li> <li>・幅広い知識と教養を身に付ける観点から、「原価予測の方法」、「損益分岐点比率と安全余裕率」を発展学習として掲載した（第1号）。</li> </ul> | <p>p. 237～251</p> <p>p. 237</p> <p>p. 237</p> <p>p. 251～253</p> |
| 記帳練習例題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主及び自立の精神を養う観点から、記帳例題を掲載し、自学自習に役立つよう配慮している（第2号）。</li> </ul>   | p. 254～264  |
| 重要事項のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主及び自立の精神を養う観点から、学習してきた重要事項のまとめを掲載し、自学自習に役立つよう配慮している（第2号）。</li> </ul>   | p. 265～271  |
| ADVANCE  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという観点から、対話形式の文章や調べ学習を通じて積極的・能動的な学習ができるADVANCEを設けた（第2号）。</li> </ul>   | p. 272～283  |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ① 豊かな人間性，創造性を養うという観点から，全編カラーページとし，視覚的な学習効果をはかった。また，UDフォントを用いて，すべての学習者が使いやすいように配慮している。
- ② 一般的な教養を高め，専門的な知識，技術及び技能を習得するとい観点から，工業簿記，原価の費目別計算，原価の部門別計算と製品別計算，製造業の原価管理に役立つ標準原価計算，さらに，利益計画に役立つ直接原価計算まで丁寧に記述している。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| ※受理番号          | 学 校            | 教 科      | 種 目  | 学 年 |
|----------------|----------------|----------|------|-----|
| 107-118        | 高等学校           | 商業       | 原価計算 |     |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教 科 書 名 |      |     |
|                |                |          |      |     |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本書は、「原価計算」を履修する学習者のために、製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価情報を活用する能力を育成することを目的として編修した。この目的を効率よく達成できるようにするため、以下の点に配慮している。

- (1) 全体を「第1編 原価計算の基礎」、「第2編 原価の費目別計算」、「第3編 原価の部門別計算と製品別計算」、「第4編 製品の完成・販売と決算」、「第5編 標準原価計算の基礎」、「第6編 直接原価計算の基礎」に分けて、編ごとにまとまりのある学習ができるようにした。
- (2) 第1編の「第3章 工業簿記」では、総論としての基本的事項を学習するという点から、仕掛品勘定と製造間接費勘定を用いる個別原価計算の記帳手続きの例示を取り扱った。
- (3) 生徒の間違いやすい箇所については、ていねいにわかりやすく記述するとともに、必要に応じて、仕訳上の注意、計算上の注意などの囲み記事を設けた。
- (4) 図解を多く用いて、記帳手続きの流れや学習事項の相互関係などを視覚的に理解できるよう配慮した。
- (5) 例題を豊富に掲げ、練習問題を各章末に、記帳練習例題を巻末に設けた。これにより、製造業における記帳について習熟できるように構成した。
- (6) 自学自習に役立つよう、勘定の振り替え関係や図解、計算式等をまとめた「重要事項のまとめ」を設けた。
- (7) 対話形式や調べ学習を取り入れ、主体的・対話的な学びに配慮した「ADVANCE」を設けた。
- (8) 全編カラーユニバーサルデザインを採用したカラーページとした。また、UD フォントを用いて、学習要素やその関連性がより分かりやすくなるように工夫した。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容  | 該当箇所                                   | 配当<br>時数               |
|---|--|--|------------------------|
| 第1編 原価計算の基礎<br>第1章 原価と原価計算<br>第2章 原価計算のあらまし<br>第3章 工業簿記－製造業における簿記－  | (1) 原価と原価計算<br>ア 原価の概念<br>イ 原価計算の特色と仕組み                                    | p. 7～46                                | 2<br>5<br>5            |
| 第2編 原価の費目別計算<br>第4章 材料費の計算<br>第5章 労務費の計算<br>第6章 経費の計算   | (2) 原価の費目別計算<br>ア 材料費の計算<br>イ 労務費の計算<br>ウ 経費の計算                            | p. 47～88                               | 7<br>6<br>4            |
| 第3編 原価の部門別計算と製品別計算<br>第7章 個別原価計算<br>第8章 部門別個別原価計算<br>第9章 総合原価計算<br>第10章 工程別総合原価計算<br>第11章 総合原価計算における減損・仕<br>損じなどの処理 | (3) 原価の部門別計算と製品別計<br>算<br>ア 個別原価計算と製造間接費<br>の計算<br>イ 部門別個別原価計算<br>ウ 総合原価計算 | p. 89～184                              | 12<br>9<br>9<br>5<br>4 |
| 第4編 製品の完成・販売と決算<br>第12章 製品の完成と販売<br>第13章 決算と本社・工場間の取引   | (4) 内部会計<br>ア 製品の完成と販売<br>イ 工場会計の独立<br>ウ 製造業の決算                            | p. 185～202                             | 2<br>4                 |
| 第5編 標準原価計算の基礎<br>第14章 標準原価計算（その1）<br>第15章 標準原価計算（その2）   | (5) 標準原価計算<br>ア 標準原価計算の目的と手続<br>イ 原価差異の原因別分析                               | p. 203～236                             | 3<br>5                 |
| 第6編 直接原価計算の基礎<br>第16章 直接原価計算（その1）<br>第17章 直接原価計算（その2）   | (6) 直接原価計算<br>ア 直接原価計算の目的と財務<br>諸表の作成<br>イ 短期利益計画への活用                      | p. 237～253                             | 3<br>4                 |
| 記帳練習例題<br>第1例題<br>第2例題<br>第3例題  |  | p. 254～255<br>p. 256～260<br>p. 261～264 | 4<br>7<br>5            |
|   |  | 計                                      | 105                    |

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

|                |                |          |      |     |
|----------------|----------------|----------|------|-----|
| ※受理番号          | 学 校            | 教 科      | 種 目  | 学 年 |
| 107-118        | 高等学校           | 商業       | 原価計算 |     |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教 科 書 名 |      |     |
|                |                |          |      |     |

| ページ         | 記 述           | 類 型 | 関連する学習指導要領の内容や<br>内容の取扱いに示す事項 | ページ数 |
|-------------|---------------|-----|-------------------------------|------|
| 251～<br>252 | 原価予測の方法       | 1   | (6) 直接原価計算                    | 2    |
| 253         | 損益分岐点比率と安全余裕率 | 1   | (6) 直接原価計算                    | 1    |
| 合計          |               |     |                               | 3    |

(備考) 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。

- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
- ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2

## 常用漢字以外の使用漢字一覧表

|       |     |
|-------|-----|
| 使用漢字  | 梯   |
| 初出ページ | 287 |

# 出典一覧表

| 申請図書   |    |    | 出典 |     |      |     |       | 備考   |
|--------|----|----|----|-----|------|-----|-------|--|
| ページ    | 名称 | 種別 | 名称 | ページ | 著作者等 | 発行者 | 発行年次等 |  |
| 巻頭特集 4 |    | 写真 |    |     |      |     |       | 4点すべて<br>著者（伊藤先生）<br>撮影<br>5点すべて<br>日清製粉より提供 |
| 巻頭特集 5 |    | 写真 |    |     |      |     |       |  |

※上記以外は自社作成

- (備考) 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。  
 (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作権者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。



# ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

| 申請図書 |                                     |             | 学習上の参考に供する情報 |          |            | 備考         |
|------|-------------------------------------|-------------|--------------|----------|------------|------------|
| 番号   | ページ                                 | 種別          | 参照先          | URL      | 概要         |            |
| 1    | 5                                   | 二次元コード, URL | 自社           | 自社ページURL | 一次遷移画面     | 別紙1~19添付   |
| 2    | 11                                  | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第1章例題解説動画  | 別紙2-1添付    |
| 3    | 17                                  | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第2章例題解説動画  | 別紙2-2添付    |
| 4    | 29,31,33,35,37                      | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第3章例題解説動画  | 別紙3-1~9添付  |
| 5    | 51,53,55,59,61,63                   | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第4章例題解説動画  | 別紙4-1~6添付  |
| 6    | 69,71,73,75,77                      | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第5章例題解説動画  | 別紙5-1~9添付  |
| 7    | 83,85                               | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第6章例題解説動画  | 別紙6-1~3添付  |
| 8    | 101,103,105,107,111                 | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第7章例題解説動画  | 別紙7-1~6添付  |
| 9    | 123,125,127,129,131                 | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第8章例題解説動画  | 別紙8-1~9添付  |
| 10   | 141,145,149,151,153,155,157,159     | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第9章例題解説動画  | 別紙9-1~11添付 |
| 11   | 167,171,173                         | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第10章例題解説動画 | 別紙10-1~4添付 |
| 12   | 177,179,181,183                     | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第11章例題解説動画 | 別紙11-1~6添付 |
| 13   | 187,189                             | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第12章例題解説動画 | 別紙12-1~4添付 |
| 14   | 195,197,199                         | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第13章例題解説動画 | 別紙13-1~6添付 |
| 15   | 209,211                             | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第14章例題解説動画 | 別紙14-1,2添付 |
| 16   | 213,215,217,219,221,223,225,227,229 | 二次元コード      | 自社           | 自社ページURL | 第15章例題解説動画 | 別紙15-1~9添付 |

|    |                         |        |    |          |               |            |
|----|-------------------------|--------|----|----------|---------------|------------|
| 17 | 241                     | 二次元コード | 自社 | 自社ページURL | 第16章例題解説動画    | 別紙16-1添付   |
| 18 | 243,245                 | 二次元コード | 自社 | 自社ページURL | 第17章例題解説動画    | 別紙17-1~3添付 |
| 19 | 273,275,277,279,281,283 | 二次元コード | 自社 | 自社ページURL | ADVANCEワークシート | 別紙18-1~6添付 |
| 20 | 285,287,289,291         | 二次元コード | 自社 | 自社ページURL | 原価計算基準全文      | 別紙19添付     |

[全コンテンツを表示](#)

## 原価計算

🔍 ページ検索

100 ページ [検索](#)

🔍 ジャンル検索



例題解説動画



教科書掲載問題解答用紙



原価計算基準 (全文)

🔍 単元検索

|        |                       |        |               |
|--------|-----------------------|--------|---------------|
| 第 1 章  | 原価と原価計算               | 第 2 章  | 原価計算のあらまし     |
| 第 3 章  | 工業簿記—製造業における簿記—       | 第 4 章  | 材料費の計算        |
| 第 5 章  | 労務費の計算                | 第 6 章  | 経費の計算         |
| 第 7 章  | 個別原価計算                | 第 8 章  | 部門別個別原価計算     |
| 第 9 章  | 総合原価計算                | 第 10 章 | 工程別総合原価計算     |
| 第 11 章 | 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 | 第 12 章 | 製品の完成と販売      |
| 第 13 章 | 決算と本社・工場間の取引          | 第 14 章 | 標準原価計算 (その 1) |
| 第 15 章 | 標準原価計算 (その 2)         | 第 16 章 | 直接原価計算 (その 1) |
| 第 17 章 | 直接原価計算 (その 2)         | 巻末     |               |

[全コンテンツを表示](#)

## 原価計算

🔍 ページ検索


100


ページ

検索

🔍 ジャンル検索

 例題解説動画

 教科書掲載問題解答用紙

 原価計算基準（全文）

別紙 19

🔍 単元検索

別紙 1-1

第1章 原価と原価計算

第2章 原価計算のあらまし

別紙 2-1～2-3

別紙 3-1～3-10

第3章 工業簿記—製造業における簿記—

第4章 材料費の計算

別紙 4-1～4-7

別紙 5-1～5-9

第5章 労務費の計算

第6章 経費の計算

別紙 6-1～6-4

別紙 7-1～7-7

第7章 個別原価計算

第8章 部門別個別原価計算

別紙 8-1～8-10

別紙 9-1～9-12

第9章 総合原価計算

第10章 工程別総合原価計算

別紙 10-1～10-5

別紙 11-1～11-6

第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理

第12章 製品の完成と販売

別紙 12-1～12-4

別紙 13-1～13-5

第13章 決算と本社・工場間の取引

第14章 標準原価計算（その1）

別紙 14-1～14-3

別紙 15-1～15-10

第15章 標準原価計算（その2）

第16章 直接原価計算（その1）

別紙 16-1～16-2

別紙 17-1～17-3

第17章 直接原価計算（その2）

巻末

別紙 18-1～18-6

別紙 1 - 1

原価計算 練習問題解答用紙

|        |  |
|--------|--|
| 学年 組 番 |  |
| 名      |  |
| 前      |  |

第 1 章

1.

|   |   |  |   |  |
|---|---|--|---|--|
| ① | ア |  | イ |  |
| ② | ウ |  | エ |  |
| ③ | オ |  |   |  |
| ④ | カ |  |   |  |

2.

|      |  |
|------|--|
| 製造原価 |  |
| 総原価  |  |

3.

|  |
|--|
|  |
|--|

別紙 2-1

**例 1** 次の資料から製品 A の製造原価と総原価を計算しなさい。

**【資料】**

- ① 製品 A の製造のために要した原価  
材料費 ¥100,000 労務費 ¥70,000  
経費 ¥60,000
- ② 製品 A の販売と管理のために要した費用  
販売費 ¥20,000 一般管理費 ¥4,000

例 1 で、製造原価と総原価について確認しましょう。

別紙 2-2

**例 1** 次の資料から、原価計算表を作成し、大型ヨットと遊覧ボートの製造原価を計算しなさい。

- ① 材料費 ¥10,000,000  
直接材料費 ¥9,000,000 (大型ヨット ¥5,000,000 遊覧ボート ¥4,000,000)  
間接材料費 ¥1,000,000
- ② 労務費 ¥7,000,000  
直接労務費 ¥5,000,000 (大型ヨット ¥2,000,000 遊覧ボート ¥3,000,000)  
間接労務費 ¥2,000,000

例 1 で、簡単な例による原価計算について確認しましょう。

別紙2 - 3

原価計算 練習問題解答用紙

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 学年 |  | 組 | 番 |
| 名  |  |   |   |
| 前  |  |   |   |

第2章

1.

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| ア |  | イ |  |
| ウ |  | エ |  |

2.

|     |  |
|-----|--|
| (1) |  |
| (2) |  |
| (3) |  |
| (4) |  |

3.

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| ① |  | ② |  |
| ③ |  | ④ |  |

別紙 3-1

**例 1** 材料 ¥300,000 を仕入れ、代金は掛けとした。

**例 2** 材料を直接材料費として ¥250,000 間接材料費として ¥30,000 消費した。

例 1 と 2 で、材料勘定について確認しましょう。

別紙 3-2

**例 3** 労務費 ¥200,000 を、当座預金から支払った。

**例 4** 労務費を直接労務費として ¥150,000 間接労務費として ¥20,000 消費した。

例 3 と 4 で、労務費勘定について確認しましょう。

別紙 3-3

**例 5** 経費 ¥100,000 を、当座預金から支払った。

**例 6** 経費を直接経費として ¥10,000 間接経費として ¥60,000  
販売費及び一般管理費として ¥20,000 消費した。

例 5 と 6 で、経費勘定について確認しましょう。

別紙 3-4

**例 7** 製造間接費 ¥110,000 を、仕掛品勘定に振り替えた。

例 7 で、製造間接費勘定について確認しましょう。

別紙 3-5

**例 8** 製造指図書 # 1 の製品が完成した。その製造原価は ¥400,000 である。

例 8 で、仕掛品勘定について確認しましょう。

別紙 3-6

**例 9** 当月の売上製品の製造原価は ¥400,000 である。

例 9 で、製品勘定について確認しましょう。

別紙 3-7

**例 10** 月末に、売上原価勘定の残高 ¥400,000 を、損益勘定に振り替えた。

例10で、売上原価勘定について確認しましょう。

別紙 3-8

**例 11** 製品 ¥500,000 を売り上げ、代金は掛けとした。

**例 12** 月末に、売上勘定の残高 ¥500,000 を損益勘定に振り替えた。

例11と12で、売上勘定について確認しましょう。

別紙 3-9

**例 13** 月末に、販売費及び一般管理費の残高 ¥100,000 を、損益勘定に振り替えた。

例13で、販売費及び一般管理費について確認しましょう。

別紙3 - 10

原価計算 練習問題解答用紙

第3章

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 学年 |  | 組 | 番 |
| 名  |  |   |   |
| 前  |  |   |   |

1.

(1) 購買活動に関する取引

|   |     |  |     |  |
|---|-----|--|-----|--|
| ① | (借) |  | (貸) |  |
| ② | (借) |  | (貸) |  |
| ③ | (借) |  | (貸) |  |

(2) 製造活動に関する取引

|   |     |  |     |  |
|---|-----|--|-----|--|
| ① | (借) |  | (貸) |  |
| ② | (借) |  | (貸) |  |
| ③ | (借) |  | (貸) |  |
| ④ | (借) |  | (貸) |  |
| ⑤ | (借) |  | (貸) |  |

(3) 販売活動に関する取引

|   |     |  |     |  |
|---|-----|--|-----|--|
| ① | (借) |  | (貸) |  |
| ② | (借) |  | (貸) |  |

別紙4-1

- 例 1** 6月3日 東京物産株式会社から素材 ¥420,000 を買い入れ、代金は掛けとした。
- 7日 大阪商店から消耗工具器具備品 ¥40,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。
- 10日 広島産業株式会社から買入部品 ¥125,000 を買い入れ、代金は掛けとした。

例1で、材料仕入れの記帳について確認しましょう。

別紙4-2

**例 2** 素材の实地棚卸を行った結果、帳簿有高と実際有高とに次のような違いがあることがわかった。

|         |       |            |           |
|---------|-------|------------|-----------|
| 帳簿有高    | 400kg | @ ¥1,000   | ¥400,000  |
| ー) 実際有高 | 390 " | " " ¥1,000 | " 390,000 |
| 棚卸減耗高   | 10kg  | @ ¥1,000   | ¥ 10,000  |

例2で、棚卸減耗の処理について確認しましょう。

別紙4-3

**例 3** 6月10日 素材 ¥260,000を消費した。ただし、出庫伝票には製造指図書番号#1が記入されている。

13日 材料を次のとおり消費した。

|       |         |              |         |
|-------|---------|--------------|---------|
| 買入部品  | ¥40,000 | 燃料           | ¥16,000 |
| 工場消耗品 | ¥21,000 | 消耗工具<br>器具備品 | ¥15,000 |

ただし、買入部品の出庫伝票には、製造指図書番号#3が記入されている。

例3で、材料を消費したときの記帳について確認しましょう。

別紙4-4

**例 4** 素材Aの受け入れ・払い出しの記録は次のとおりである。これを材料元帳に先入先出法・移動平均法・総平均法によって記入し、それぞれの消費高を計算しなさい。

|      |      |       |        |         |
|------|------|-------|--------|---------|
| 6月1日 | 前月繰越 | 200kg | @ ¥200 | ¥40,000 |
| 8日   | 受入高  | 300kg | @ ¥240 | ¥72,000 |
| 15日  | 払出高  | 300kg |        |         |
| 20日  | 受入高  | 250kg | @ ¥260 | ¥65,000 |
| 25日  | 払出高  | 250kg |        |         |

例4で、材料消費高の計算について確認しましょう。

別紙4 - 5

- 例 5** (1) 素材の予定消費高は¥350,000である。うち、直接材料費は¥250,000で、残額は間接材料費である。
- (2) 素材の実際消費高は¥353,000であった。
- (3) 予定消費高と実際消費高との差額を、月末に材料消費価格差異勘定に振り替えた。

例5で、予定価格法による場合の記帳について確認しましょう。

別紙4 - 6

- 例 6** 材料消費価格差異勘定の借方残高¥2,000を会計期末に売上原価勘定に振り替えた。

例6で、差異残高の振り替えについて確認しましょう。

別紙4 - 7

原価計算 練習問題解答用紙

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 学年 |  | 組 | 番 |
| 名  |  |   |   |
| 前  |  |   |   |

第4章

1.

|  |
|--|
|  |
|--|

2.

|   |   |  |   |  |
|---|---|--|---|--|
| ① | ア |  | イ |  |
| ② | ウ |  | エ |  |

3.

|     |     |  |     |  |
|-----|-----|--|-----|--|
| 6/3 | (借) |  | (貸) |  |
| 5   | (借) |  | (貸) |  |
| 7   | (借) |  | (貸) |  |
| 12  | (借) |  | (貸) |  |
| 18  | (借) |  | (貸) |  |
| 22  | (借) |  | (貸) |  |
| 26  | (借) |  | (貸) |  |
| 30  | (借) |  | (貸) |  |

別紙5 - 1

**例 1** 次の6月20日の資料によって、賃金を支払ったときの仕訳を示し、勘定口座に転記しなさい。なお、正味支払高 ¥1,550,000は当座預金から支払った。

《資料》

基本賃金 ¥1,400,000    割増賃金 ¥200,000    諸手当 ¥210,000  
控除額 ¥260,000(内訳：所得税 ¥165,000    健康保険料 ¥95,000)

例1で、賃金を支払ったときの記帳について確認しましょう。

別紙5 - 2

**例 2** 次の6月10日の資料から、賃金を消費したときの仕訳を示し、勘定口座に転記しなさい。

《資料》

作業時間票 20枚    実際平均賃率 ¥900

作業時間票の集計による合計作業時間 600時間  
内訳：直接作業時間 500時間(製造指図書番号の記入あり)  
間接作業時間 100時間(製造指図書番号の記入なし)

例2で、賃金消費の記帳について確認しましょう。

別紙5 - 3

- 例 3** (1) 予定賃率による予定消費高は、¥750,000である。うち、直接労務費は¥500,000で、残額は間接労務費である。
- (2) 賃金の実際消費高は¥758,000であった。
- (3) 予定消費高と実際消費高との差額を、月末に賃率差異勘定に振り替えた。

例3で、予定賃率による場合の記帳について確認しましょう。

別紙5 - 4

- 例 4** 賃率差異勘定の貸方残高¥5,000を会計期末に売上原価勘定に振り替えた。

例4で、差異残高の振り替えについて確認しましょう。

別紙5 - 5

**例 5** 6月25日 従業員の給料 ¥360,000と諸手当 ¥78,000の支払いにあたり、次の控除額を差し引き、正味支払高 ¥402,500を当座預金から支払った。  
控除額 所得税 ¥26,000 健康保険料 ¥9,500  
30日 給料 ¥360,000を製造間接費として計上した。

例5で、給料・雑給について確認しましょう。

別紙5 - 6

**例 6** 1月31日 月末に従業員の賞与の月割額 ¥800,000を製造間接費とした。(2月～6月の月末も同様)  
6月25日 上半期の従業員賞与 ¥4,800,000(実際支払額)を、当座預金から支払った。

例6で、従業員賞与手当について確認しましょう。

別紙5 - 7

**例 7** 1月31日 月末に退職給付費用として¥500,000(月割額)を、製造間接費とした。(2月~12月の月末も同様)  
12月31日 決算にあたり退職給付引当金¥6,000,000を計上した。

**例 8** 従業員Aが退職したので、退職金¥4,700,000を現金で支払った。

例7と8で、退職給付費用について確認しましょう。

別紙5 - 8

**例 9** 5月31日 健康保険料の事業主負担分¥20,000を、製造間接費とした。  
6月10日 健康保険料(従業員負担分¥20,000を含む)¥40,000を当座預金から健康保険組合に支払った。

例9で、福利費について確認しましょう。

別紙5 - 9

原価計算 練習問題解答用紙

第5章

|        |  |
|--------|--|
| 学年 組 番 |  |
| 名前     |  |

1.

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| ㊸ |  | ㊹ |  |
| ㊺ |  | ㊻ |  |

2.

| 貸 金 |  |
|-----|--|
|     |  |
|     |  |
|     |  |
|     |  |

3.

|   |     |  |     |  |
|---|-----|--|-----|--|
| ① | (借) |  | (貸) |  |
| ② | (借) |  | (貸) |  |
| ③ | (借) |  | (貸) |  |
| ④ | (借) |  | (貸) |  |

| 貸 金 |  | 消費貸金 |  |
|-----|--|------|--|
|     |  |      |  |
|     |  |      |  |
|     |  |      |  |
|     |  |      |  |

当月末の貸金未払高

別紙 6 - 1

**例 1** 6月20日 外注加工賃 ¥25,000を現金で支払った。  
30日 外注加工賃の当月未払高は ¥8,000であったので、  
外注加工賃の当月消費高 ¥33,000を直接経費と  
して計上した。

例1で、支払経費について確認しましょう。

別紙 6 - 2

**例 2** 2月28日 月末に、減価償却費の月割額 ¥10,000を、製造  
間接費とした。  
12月31日 決算にあたり、機械装置の減価償却費 ¥120,000  
を計上した。

例2で、月割経費について確認しましょう。

別紙 6 - 3

**例 3** 6月30日 当月の経費の消費高は次のとおりであった。なお、外注加工賃以外のものは、すべて間接経費である。

|      |               |              |
|------|---------------|--------------|
| 支払経費 | 外注加工賃 ¥33,000 | 修繕料 ¥39,000  |
|      | 保管料 ¥43,500   |              |
| 月割経費 | 減価償却費 ¥10,000 | 保険料 ¥8,000   |
|      | 租税公課 ¥12,000  | 棚卸減耗損 ¥1,000 |
| 測定経費 | 電力料 ¥19,170   | ガス代 ¥6,840   |
|      | 水道料 ¥12,550   |              |

例3で、経費を消費したときの記帳について確認しましょう。

別紙 6 - 4

原価計算 練習問題解答用紙

|    |    |   |   |
|----|----|---|---|
|    | 学年 | 組 | 番 |
| 名前 |    |   |   |

第 6 章

1.

|      |  |
|------|--|
| 支払経費 |  |
| 月割経費 |  |
| 測定経費 |  |

2.

|      |  |
|------|--|
| ①保険料 |  |
| ②賃借料 |  |
| ③修繕料 |  |
| ④ガス代 |  |
| ⑤保管料 |  |

3.

|   |  |   |  |   |  |
|---|--|---|--|---|--|
| ㊦ |  | ㊧ |  | ㊨ |  |
| ㊩ |  | ㊪ |  |   |  |

4.

|     |  |     |  |
|-----|--|-----|--|
| (借) |  | (貸) |  |
|-----|--|-----|--|

別紙 7 - 1

**例 1** 次の資料から、製造間接費予定配賦表を作成し、製造指図書別の製造間接費予定配賦額を求めなさい。ただし、製造指図書 # 121 は 9 月 20 日に完成した。

予定配賦率 ¥140 (1 時間あたり)

9 月の実際直接作業時間 400 時間

|                |        |
|----------------|--------|
| 内訳：製造指図書 # 121 | 110 時間 |
| 〃 # 122        | 120 時間 |
| 〃 # 123        | 170 時間 |

例 1 で、製造間接費予定配賦の手続きについて確認しましょう。

別紙 7 - 2

**例 2** 例 1 の製造間接費予定配賦表と、9 月の製造間接費の実際発生額の資料にもとづいて、次の①～③の仕訳を行い、各勘定と原価計算表(98 ページと同じもの)に記入しなさい。

〈9 月の製造間接費の実際発生額〉

間接材料費 ¥18,500      間接労務費 ¥24,500

間接経費      ¥17,000

- ① 製造間接費予定配賦表にもとづく仕訳
- ② 9 月の製造間接費の実際発生額を処理する仕訳
- ③ 製造間接費配賦差異を処理する仕訳

例 2 で、予定配賦の記帳法について確認しましょう。

別紙7-3

**例 3** 次の資料にもとづき種々の操業度に対応した製造間接費の予算額を示す線(予算線)をかき、実際操業度400時間における予算額を求めなさい。

基準操業度(直接作業時間) 425時間

固定費予算額 ¥25,500

変動費率 1時間あたり ¥80

例3で、製造間接費の予算について確認しましょう。

別紙7-4

**例 4** 次の資料から9月の製造間接費配賦差異を分析しなさい。

月間の基準操業度(直接作業時間) 425時間

基準操業度における製造間接費予算 ¥59,500

変動費率 1時間あたり ¥80

固定費予算額 ¥25,500

9月の実際直接作業時間 400時間

9月の製造間接費の実際発生額 ¥60,000

例4で、差異分析について確認しましょう。

別紙 7 - 5

**例 5** 次の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 製造指図書 # 101の製品20個が仕損じとなり、補修指図書 # 101-1を発行して補修を行った。補修費用は、材料費 ¥6,000 労務費 ¥1,000 経費 ¥500であった。この仕損費は、製造指図書 # 101に直接に賦課した。
- ② 製造指図書 # 102の全部に仕損じが生じ、代品を製造することになった。旧製造指図書の製造原価は ¥30,000であり、仕損品の売却価値は、¥6,000と見積もられた。仕損費は、製造間接費とした。

例5で、仕損品の処理について確認しましょう。

別紙 7 - 6

**例 6** 次の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 製造指図書 # 106の製造中に作業くずが生じた。この作業くずの売却価値は ¥15,000であり、これを製造原価から差し引いた。
- ② 作業くずを ¥7,000で売却し、現金を受け取った。この作業くずの発生額がわずかなため、製造原価から差し引かなかった。

例6で、作業くずの処理について確認しましょう。